

山形大学医学部
東北次世代がんプロ養成プラン

NEWS LETTER (web版)

2019年度 Vol.1

◇各コースの取り組み・活動状況について

- ①次世代粒子線治療エキスパート医師養成コース
- ②腫瘍次世代専門医養成コース、希少がん・難治がん診療・がんゲノム医療研修コース
- ③在宅がん緩和看護コース
- ④口腔ケア歯科医師養成コース、がん口腔ケア歯科衛生士養成コース
- ⑤緩和・在宅医療コース
- ⑥小児・思春期・若年世代（AYA世代）のがん医療研修コース



回転ガントリー照射室・東日本重粒子センター外観



①次世代粒子線治療エキスパート医師養成コース

本学では、2021年より、小型で総合病院と接続/超伝導回転ガントリー/省エネルギーなどの優れた特徴を持つ重粒子線治療が開始される予定となっております。2020年1月現在、建屋の建設は終了し、ビームの調整を行っている段階で、最大エネルギー430MeVまでの加速に成功しております。現在2名の大学院生が研究と臨床研修を行っていますが、大学院2年次の山田は「重粒子線・陽子線・X線照射におけるスパーサーの有無による腸管線量の違い」について検討を行っており、2019年度の実績としては、4月にミラノで行われた第38回欧州放射線腫瘍学会議で発表を行い、10月に上記内容の原著論文がRadiation Oncologyにアクセプトされるなど、着実に成果を上げております (Yamada M, et al. Radiat Oncol. 2019;14(1):207.)。

さらにもう1名の大学院生は研究テーマを決定、研究計画の倫理審査を完了し、本格的な研究開始に向け準備が順調に進んでいます。



※写真は学生による学会発表

②腫瘍次世代専門医養成コース 希少がん・難治がん診療・がんゲノム医療研修コース

腫瘍次世代専門医コースとして腫瘍内科全般に関する幅広い知識を身につけた臨床腫瘍医と、希少がん・難治がん診療・がんゲノム医療研修コースとして新しいニーズにかかわれる医療従事者を育てるコースを作りました。

腫瘍次世代専門医コースは、がん治療の拠点病院で多職種医療チームを率いて、がん薬物療法の施行とマネージングを指導的立場で行い、希少がん、個別化医療、遺伝子腫瘍の診断・治療を臓器横断的に行い、ライフステージごとに多様なニーズに対応できる臨床腫瘍医を作るのが目的です。さらにがんゲノム医療やトランスレーショナルリサーチについても理解し、遂行できる研究マインドを有する臨床医師の育成も目指します。

希少がん・難治がん診療・がんゲノム医療研修コースは、希少がん等の診断・治療への新しいニーズに対応したプロセスにかかわれる医師、看護師、薬剤師、メディカルスタッフを要請する場です。



ここでは、ゲノム医療や希少がんへの診断・ケアに至るまでの過程をとおして、包括的ながん医療に携われる知識を身につけることもできます。新しいニーズに対応し、他のがん治療連携拠点病院やがん治療のhigh volume centerと連携して、適切な医療資源の投入や、ケアの提供を実践できる医療人の育成を目指します。

【キャンサートリートメントボード】
2週間に1回キャンサートリートメントボードというがん治療に特化した治療法を話し合う場面。

③在宅がん緩和看護コース

2019年度のコースの入学者数等は191名となりました。講演会の総参加者数は184名、講義は延べ269名で実習は延べ14名、参加者内訳は以下の表の通りとなっております。

研修内容	内容	参加者数
講演会1	令和元年6月1日（土） 医療政策学講座 村上正泰教授 地域包括ケアシステムと医療提供体制改革の行方： 「2025年」を越えて「2040年」に向けて	101名
講演会2	令和元年11月9日（土） 「がんの看取り ―在宅看取り支援を考える―」多職種 で考えるシンポジウム	83名
講義	14コース※	延 269名
附属病院 実習	6コース：がん患者相談と退院支援、疼痛緩和医療部、外来 化学療法室、チーム医療、褥瘡ケア、NST・口腔ケア	延 14名

【コースの特徴】

併存疾患を持つ高齢者やAYA世代のがん患者の増加など複雑化する背景を受け、**知識・根拠を学習し**、それを踏まえた**実践演習もできる**構成となっています。在宅や臨床現場での看護には方法論だけではなく、判断力が問われます。予測・予防的な視点からの**判断力をつけ**、在宅で**具体的な看護支援、多職種連携**ができるように留意しています。

【コース講義の内容】

各ライフステージにある在宅がん療養者への看護の実際：がん療養者の入退院支援、がんサバイバーシップと社会復帰支援、がんの薬物療法、オンコロジーエマーゼンシー、がん患者への褥瘡対策、およびポジショニング理論の活用と演習、がん化学療法を受ける患者の治療と看護、リラクゼーションの技術と活動の実際、エンドオブライフケア講義と演習
(ELNEC-Jコアカリキュラムより)



④口腔ケア歯科医師養成コース がん口腔ケア歯科衛生士養成コース

一般開業歯科を受診する担癌患者は今後増加の一途を辿ると予想され、健常者はもちろんのこと、各ライフステージに合わせた指導・診療を行うことができる開業歯科医・衛生士の養成が求められています。

本コースでは、参加された先生方の日常臨床の一助になるよう、口腔がんに対する知識のみならず、担癌状態の患者に起こりえる口腔の変化や、歯科治療を行う場合の留意点を紹介しています。

村山、庄内、置賜、最上エリアの先生方に受講頂いており、本コースが、地域がん拠点病院、医師会、歯科医師会の緊密な病診連携の構築に繋がれば幸いです。



※日本海総合病院での出張講義の様子

⑤緩和・在宅医療コース



2019年12月20日（金）がんプロセミナー開催

講師：仙台医療センター 緩和ケア内科
田島つかさ 先生

「臨床現場のアドバンスケアプランニング（ACP）」

12月に開催したセミナーには、年末の行事が多い中、医師、看護師、薬剤師、技師、教員など、多職種から、学外参加者12名を含む計63名の参加がありました。

講師は、医療者にはACPの口火を切る役割があると述べ、終了後は活発な意見交換が交わされました。

本コースでは、ACPについて、3月にも講演会を予定しています。



⑥小児・思春期・若年世代（AYA世代）のがん医療研修コース

小児・思春期・若年成人(AYA世代)のがんは、壮年層のがんと異なり、発症数が稀少で、その疾患構成は血液がん、肉腫、脳腫瘍の割合が、また若年女性では、乳がん、子宮頸がんの割合が高いという特徴があります。患者さんは、社会的自立への過程にあり、精神的にも不安定な小児・思春期・若年成人に対しては、告知、治療、治療後晩期、末期ケア、妊孕性への配慮等、それぞれの疾患ステージにおいて、的確な精神的・医療的支援を行う必要があります。このため、各診療科、各職域を越えた横断的集学的対応と治療が必要となります。こうした特徴に鑑み、関連各科、関連各職種領域全ての従事者を対象とするインテンシブコースを設置、学内外を問わず広く講師を迎え、この世代特異的な問題についてのセミナーを行いチームで診療にあたる人材養成中心に活動しています。

2019年度は、これまでに小児・AYA世代における骨軟部腫瘍の診療、小児・AYA世代がんの長期フォローアップをテーマにセミナーを開催。東北がんネットを通じた多施設の症例検討会、患者さんの生活上の様々な問題を話合う東北がん相談支援部会会議にも参加してもらっています。



セミナー討論の様子